

沖繩作戰に關する質疑に關する回答

昭和三年十二月十三日
第一復員局

2400-1
5100-1
2-1

沖繩
16

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

6 2/1

沖繩作戰ニ関スル質疑ニ関スル回答

昭和二十年十二月二十日
第一復員省

戦史誌

陸軍

沖繩作戰ニ關スル質疑ニ關スル件回答

昭和二十年十二月二十二日
第一復員省

註
資料ノ大部燒却ノ爲前大本營主任藤條ノ記憶斷片的記錄及作戦參加者ノ陳述ヲ基礎トセリ史實不備又ハ若干ノ差異等ナキヲ保セヌ

一、帝國大本營ハ米國カ一九四五年春臺灣又ハ沖繩ヲ攻撃スルモノト豫期セシヤ

答

米軍ノ沖繩又ハ臺灣方面ニ對スル作戦ハ豫期シアリタリ之ニ繼スル對米企圖判斷ノ階梯次ノ如シ

A 一九四四年末比島方面作戦進歩中ニ於テハ米軍ハ比島作戦ニ引續キ南支沿岸ヨリ臺灣ニ互リ作戦シ次テ一九四五年一月乃至二月ノ候逐次臺灣或ハ沖繩方面ニ作戦シ帝國本七ト南方面トヲ分斷スル算大ナリト判斷セリ

B 一九四五年二月末ヨリ三月上旬頃ニ於テ米軍ノ新ナル作戦ハ臺灣ヲ經スシテ三月下旬乃至四月上旬頃直接沖繩本島方面ニ指向セラルルハ必至ナリト判斷セリ

判斷ノ基礎次ノ如シ

1 硫黃島作戦ト關聯シ米軍ノ全般企圖カ帝國本七ヲ大陸ヨリ分

新孤立等ニ南方圖トノ遮断ノ徹底ヲ目的ト爲シアルカニ判断セラレタリ尙一面本土ニ對スル進攻ノ急速ヲ要スル米艦編モ盛トナリ之カ爲航艦並進攻基地ヲ廣正面ニ設定スヘキ企圖明カトナレリ

以上ノ目的ヲ實質的ニ達成シ且臺灣、支那、九州方面ヨリノ日本航艦部隊ノ攻勢ヲ回避シ得ル地域カ沖繩本島タルハ一般戰略判断ノ結論ナリ

2 中部太平洋方面ニ於ケル米輸送船團ノ「マリアナ」及比島方面ニ對スル西航艦カ二月下旬以降漸増シ三月上旬急激ニ増大セリ

以上ノ上昇状況ハ統計的ニ觀察セハ米軍カ三月下旬乃至四月上旬更ニ新作戦ヲ企圖シアルヲ示唆シ其作戰規模ハ當初三箇師團内外ト推定セラレタリ

3 米輸送船團ノ動向ト關聯シ「レイテ」方面ノ艦船ノ集結移動狀況活潑化シ該方面ニ對スル米軍ノ兵力展開開始セラレタル

陸軍

ヲ示唆シ「レイテ」方面カ新作戦ノ爲ノ有力ナル補給基地タルヘキヲ判断セラレ米軍新作戦ノ指向方向ハ南西諸島又ハ臺灣方面ナルヲ推定セラル

3 硫黃島作戰及比島作戰ノ進歩ニ伴ヒ南西諸島方面ニ對スル米軍ノ來襲漸次活潑化シ新作戦ノ方向判断ノ基礎トナレリ

4 硫黃島作戰開始前ヨリ南西諸島周邊及本土近海ニ對スル米軍潜水艦ノ數ハ漸増セルカ三月上旬以降連日奄美大島及沖繩本島周邊ニ多數ノ潜水艦出沒セリ

ニ沖繩ノ防禦ニ關スル帝國大本營ノ計畫如何

答

A 沖繩ノ防禦ヲ擔任セシ第三十二軍ハ大本營直轄ニ非スシテ第十方面軍司令官ノ指揮ニ屬セリ
從ツテ大本營ハ該方面軍ニ一般任務ヲ附與シ右防禦作戰ニ關ス

ル海軍ノ協力關係ヲ律シ細部ノ計畫ハ第十方面軍司令官ノ責任ニ於テ樹立セラレタリ

B 大本營ヨリ第十方面軍司令官ニ附與セラレタル任務次ノ如シ

1 臺灣及南西諸島ヲ防衛スヘシ（一九四五年二月上旬迄）

2 臺灣及南西諸島ニ於ケル敵ノ空海基地ノ推進ヲ破潰シ以テ帝國本土、朝鮮及支那沿岸方面ニ對スル敵ノ來攻ヲ封殺スヘシ

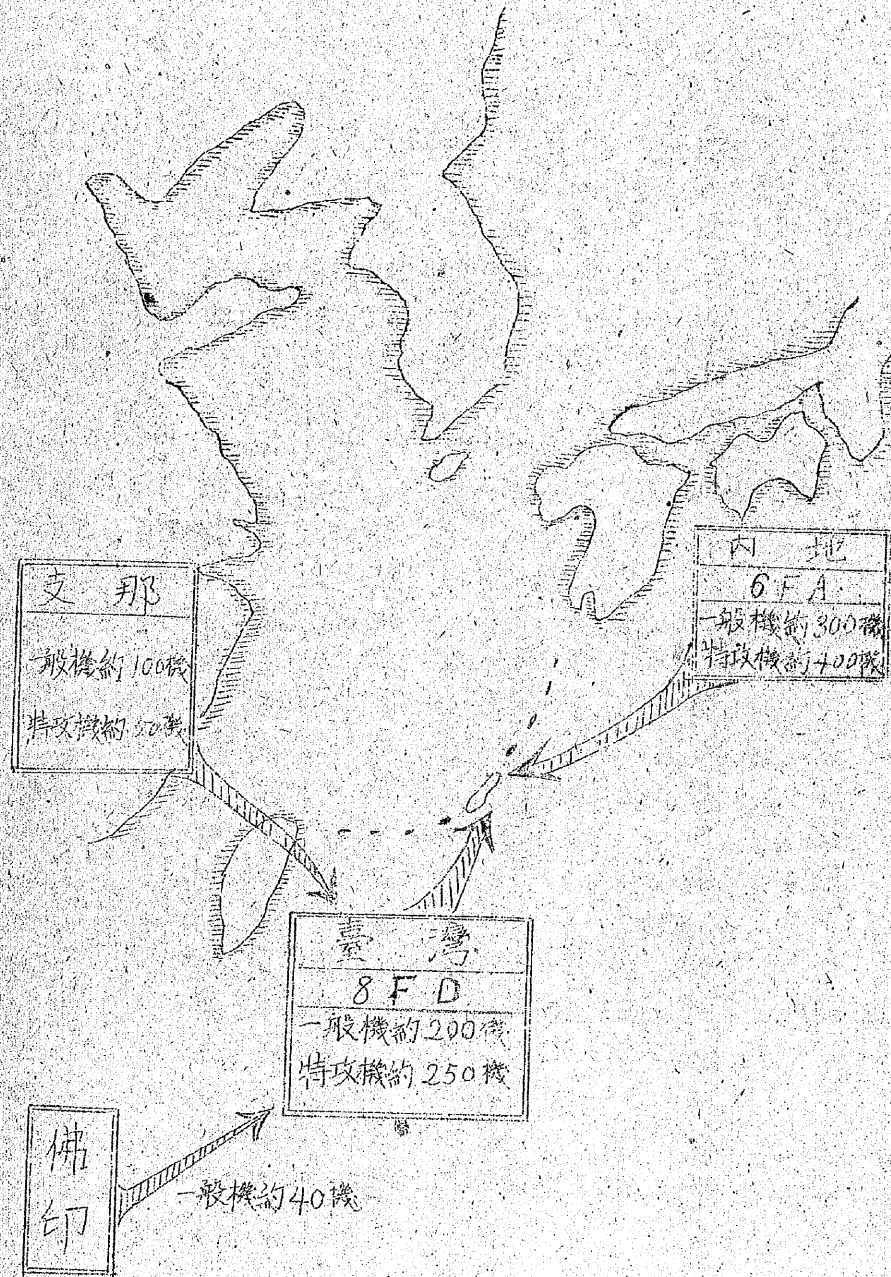
又臺灣及沖繩本島ハ九州及樺子江下流地域ト相俟ツテ襲略アル航空作戰遂行ノ基地タラシムヘシ（一九四五年二月上旬命令）

以上ノ基^本任務ニ基キ第十方面軍司令官ハ第三十二軍司令官ニ對シ次ノ要旨ノ作戰任務ヲ附與シアリ

現有兵力（4D 62D 44B 基幹ノ部隊）ヲ以テ沖繩本島等ヲ確保シ敵ノ空海基地ノ設定ヲ破潰スルト共ニ航空基地ノ強化確保ニ任スヘシ

C 沖繩防衛ニ關シ大本營ノ律セル航空作戰計畫ノ要旨次ノ如シ（一九四五年二月末頃ニ於ケル）

3 陸軍航空兵力運用計畫ノ腹案



1 陸海軍航空部隊ハ速ニ東支那海周邊地域（臺灣、南西諸島、東南支那、九州、南部朝鮮）ニ展開シ敵來攻部隊ヲ殲滅ス
 海軍ハ主トシテ敵機動部隊、陸軍ハ主トシテ敵輸送船團ノ攻撃ヲ擔任スルモ陸軍ハ爲シ得ル限り海軍ノ行フ敵機動部隊ノ攻撃ニ協力ス
 陸海軍共特攻兵力、整備並之カ活用ヲ重視ス
 2 指揮關係ハ陸海軍協同作戰ヲ本則トス

三 沖繩作戰間帝國大本營ヨリ第三十二軍宛送信セラレタル最も重要ナル又ハ意義アル通信ハ何ナリシヤ

答

A 四月一日米軍カ北讀谷村附近海岸ニ上陸シ一夜ニテ北飛行場ヲ占領スルヤ第二十二軍カ專守防禦ニ務スルコトナク攻勢ニヨリ敵戦力ヲ破擲シ北、中飛行場ヲ確保セシムル如ク第十方面軍ヲ

指導セル内容ノ電報ナリト思料ス

B 電報要旨次ノ如シ

北、中飛行場ノ制壓ハ第三十二軍自體ノ作戰ニモ極メテ緊要ナルハ硫黃島最近ノ戰例ニ見ルモ明カナリ

特ニ敵ノ海空基地ノ設定ヲ破碎スルハ沖繩方面作戰ノ根本變ナルノミナラス南方面航空作戰遂行ノ爲ニモ重大ナル意義ヲ有スルヲ以テ之カ制壓ニ關シテハ萬全ヲ期セラレ度

第十方面軍司令官宛 参考 第三十二軍司令官

(第三十二軍ハ大本營直轄ニ非サルヲ以テ作戰指導ハ第十方面軍ヲ通シテ爲サレタリ)

C 右ニ伴ヒ第十方面軍ハ第三十二軍ニ對シ北、中飛行場ニ向ヒ攻撃スヘク命令セリ

四 沖繩作戰第三十二軍ヨリ帝國大本營宛送信サレシ最モ重大ナル又ハ意義アル通信ハ何ナリシヤ

答

A 第三十二軍ハ主力ヲ擧ゲテ北方ニ向ヒ攻撃ヲ探ラントスル決心ヲ報告セルモノ(四月四日頃受領)

B 北方ニ對スル攻勢ヲ中止スル決心ヲ報告セルモノ(四月五日頃受領)

C 陸海軍統帥兵力ノ最後ノ一機迄投入シ沖繩作戰ヲ遂行スルノ必要性ヲ意見申セルモノ(四月十五日頃受領)

首里周邊地域ヨリ沖繩島ノ西南端ニ後退セントスル決心ヲ報告セルモノ(五月下旬末頃受領)

D 首里及其東南方附近ヨリ對北方攻勢移轉ニ關スル決心ヲ報告セルモノ(四月二十七日頃受領)

五 沖繩ヲ防禦セシ陸海軍正親部隊數如何

該作戦間防線軍ニ参加セシメラレタル武裝沖繩人ノ數如何

答

A陸軍

第三十二軍司令部

第二十四師團

第六十二師團

獨立混成第四十四旅團

獨立機關銃隊^大隊

獨立速射砲大隊隊

特設警備隊數隊

戰車聯隊

砲兵司令部

獨立臼砲聯隊

野戰重砲兵聯隊

(隊數不明)

(隊數不明)

(隊數不明)

(隊數不明)

隊

隊

隊

(十五榴)

重砲兵聯隊

獨立重砲兵大隊

獨立測地中隊

迫撃大 隊

野戰高射砲司令部

野戰高射砲大隊

機關砲隊

特設機關砲隊

航空情報隊

電信聯隊

遊 隊

第二野戰築城隊

兵站地區隊

獨立自動車中隊

隨上勤務中隊

隊 (要塞砲)

隊 (十五加)

隊

隊

隊

隊

隊

隊

隊

隊

隊

隊

隊

隊

隊

- 管設水上勤務隊 三 隊
- 沖繩陸軍病院
- 野戰防疫給水部 一 隊
- 第三十二野戰兵器廠
- 第三十二野戰貨物廠
- 兵器勤務隊 一 隊
- 移動兵器修理隊 一 隊
- 海上挺進戰隊 五 隊
- 海上挺進基地隊本部 一 隊
- 海上挺進基地大隊 五 隊
- 航空地區隊本部
- 第十九航空地區司令部
- 飛行場大隊 二 隊
- 野戰飛行場設定隊 一 隊

○武裝沖繩人約八〇〇〇人

陸軍

B 海軍

明確カラサルモ約八〇〇〇人ト推定ス

六日本大本營ハ該作戦間沖繩ノ日本軍部隊増援ノ爲何等カノ計畫ヲ立案セシヤ若シ然リトセハ夫等ノ計畫ハ如何ニナリシヤ

答

A 三月下旬ニ於テ大本營ノ指導ニ依リ第十方面軍ハ臺灣ヨリ歩兵一聯隊ヲ沖繩島ニ轉用増援スル計畫ヲ立案シ所要船艦ヲ以テ基隆乗船待機セシメタルモ米空海軍ノ行動特ニ優良箇島上陸等生起シ遂ニ實行スルニ至ラス

B 主トシテ海軍側ニ於テ四月末頃陸軍兵力ヲ繼進及輸送船ニ依リ沖繩島ニ過行輸送シ一艦ニ勝敗ヲ決セントスル案モアリタルモ陸軍トシテハ歸任ノ戦訓並ニ當時ノ彼我ノ海空勢力ノ懸絶等ヨリシテ不可能トシ眞面目ナル研究準備促進スルニ至ラザリ